

内科学〈消化器内科肝臓分野〉

担当指導医師

●本院

教授：滝川 康裕

准教授：宮坂 昭生

特任准教授：黒田 英克

講師：柿坂 啓介

特任講師：及川 隆喜

助教：吉田 雄一、遠藤 啓、鈴木 悠地、小岡 洋平

助教(任期付)：阿部珠美、佐藤寛毅

客員教授：加藤 章信

非常勤講師：村上 晶彦、山崎 潔、阿部 弘一

医療開発研究部門 特任講師：王挺

基本方針：

1. 消化器疾患の診療と治療について、5 学年の臨床実習をふまえ消化器内科肝臓分野または関連病院で実際の医療に参加しながら習得できるよう指導する。各種検査においては、本学医行為基準（平成 30 年改訂）のうち、当講座に関連するものには積極的に参加してもらう。
2. 実際の臨床実習を行う上では、医療に直接参加しているという認識を持ち、チーム医療の重要性を認識する。また、より良い患者－医師関係を得るために、身なり、挨拶や言葉づかい、患者のプライバシーへの配慮を含めた接し方を体得する。
3. 態度・技能の習得が十分と認めた学生については、認知領域のレベル向上のための実習を中心に行う。

実習内容：

1. 担当教官（担当グループ）・指導医とともに日常の医療行為に積極的に参加してもらう。外来では、指導教官の新患日に参加し、病歴聴取、身体診察法ならびに診断手順などについて学ぶ。病棟では担当教官（担当グループ）とともに患者を受け持ち、また、担当グループミーティングに参加して、病歴聴取、身体診察、各種検査を通じて医師として必要な身体態度を身に付け、医学知識と技術の習得に努める。
2. 教授回診に参加する。
3. 医局会、症例検討会に参加する。
4. 関連病院においては、指導医のもと臨床実習を行い、行事に参加する。
5. 病歴聴取と身体診察に基づく診断法
患者より病歴を聴取し、診療録記載の訓練を行う。身体診察（視診、聴診、打診、触診）による診断法ならびに記載方法などについて習得する。
6. 一般的検査法の理解と実際
尿検査、糞便検査、血液生化学検査（末梢血液、肝機能、腎機能、内分泌検査など）、画像検査（単純 X 線、腹部超音波、CT、血管造影、内視鏡）についての意義を学び、

その判読などについて習得する。なお、腹部超音波検査、血管造影検査、肝生検、肝腫瘍焼灼術については、検査を見学し、一部の検査においては担当教官の指導・監督のもとに介助を行う。

7. 基本的診察・治療手技の理解と実際

医療行為を行う上で基本となる下記の事項について学び、一部の手技については担当教官の指導・監督のもと実際に行う。＊は必須ではない。

- (1) 医療面接
- (2) カルテ記載・書類記載（カルテ記載、医療文書記載）
- (3) 処方の仕方（内服薬・外用薬処方箋、注射処方箋、食事箋、など）
- (4) 全身状態とバイタルサイン
- (5) 腹部の診察
- (6) 画像検査（超音波検査、＊腹部単純X線撮影、＊CT、＊MRI）
- (7) 血管穿刺と採血（末梢静脈穿刺・採血、末梢静脈の血管確保）
- (8) 処置および手技（皮膚消毒、＊浣腸）
- (9) ＊輸液の理論と実際（輸液製剤の種類、末梢静脈および中心静脈栄養、経腸栄養法、電解質補正など）
- (10) ＊穿刺法（胸腔、腹腔）

授業に使用する機械・器具と使用目的

使用区分	使用機器・器具等の名称	個数	使用目的
診療用機械	超音波断層装置	4	肝・胆・膵疾患の検査および超音波下生検・穿刺
診療用機械	消化管内視鏡	8台	静脈瘤の診断および治療
視聴覚用機械	プロジェクター (Data Projector XJ-S32)	1	学生講義用
視聴覚用機械	PC (Vostro220S)	1	臨床実習における症例のまとめ
視聴覚用機械	モノクロレーザープリンター (LBP9100C)	1	臨床実習における症例検討
視聴覚用機械	タブレットパソコン iPad Wi-Fi 128GB	1	臨床実習での症例提示に使用
視聴覚用機械	デスクトップパソコン EliteDesk800	1	臨床実習での症例提示に使用
視聴覚用機械	ノートパソコン ProBook 650	2	臨床実習での症例提示に使用
視聴覚用機械	ノートパソコン MacBook Pro	1	臨床実習での症例提示に使用
視聴覚用機械	ノートパソコン MacBook Air	1	臨床実習での症例提示に使用
視聴覚用機械	ノートパソコン EliteBook820	1	臨床実習での症例提示に使用
その他	複合機 MP C5503 SP	1	講義・実習資料作成